

夜間開館の試行実施

取組の背景・目的

現在東村山市にある5つの児童館のうち、夜間開館は富士見児童館の1館での実施にとどまっている。今後市の中高生の居場所や活動の場を広げることを視野に入れ、本町児童館でも夜間開館を試行的に行った。本町児童館は小さいながらもバスケットコートを有し、ここ数年で中高生の利用が多くなってきていた。日曜、祝日を除く平日5時から5時45分までの1時間弱ほどの時間を中高生バスケットボールの時間に充てているが、時間が短く子どもたちの気分が乗ってきたところで終了時間になってしまう。バスケットが始まる時間の前から宿題をする姿や、友達との会話を楽しむ姿も見られ、居場所としても有意であると判断し、令和4年7月及び9月の2か月に限定し、火曜と木曜日に時間を7時まで延長し夜間開館を試行実施した。

取組の概要

東村山市本町児童館において7月及び9月の火曜日、木曜日、17時から19時までの時間帯で主にバスケットボールを行った。職員体制は正職員2名で安全確保をした。多い時には20名の参加があったため、一度に試合ができる人数にも限界があり、ダーツゲームなども取り入れた。

工夫点・留意点

バスケットコートが小さいため、3対3または4対4までの人数が限界で、プレーをする児童以外の見ている子どもたちには、いろいろ話を職員が聞いたり、また、市役所職員が所属しているダーツ部の協力を得て、ダーツゲームも実施するなど、時間を持て余さないようにした。

取組の効果

体も大きくなってきた中高生とのかかわりは、すぐには溶け込むことは難しい。一方で時間をかけてここ数年中高生に対しても職員が積極的にかかわってきていたので、今回実施の夜間開館は予想以上に中高生には喜ばれた。また話を聞くうちに、友達や家庭での悩みや勉強や進路についての悩みを多く聞くことができた。



課題・今後の展開

いつも利用している中高生以外にも開館を聞きつけたり友達を誘ってきたりすることで、職員のほうからすぐに打ち解けて対応する必要があった。職員体制については時間を延長することで職員の勤務時間をずらして実施したが、通常の業務に少なからず負担が多かった。2か月間の実施だったので対応できたが、これを継続的に行うにはやはりそれなりの人員が必要と思われる。

一方でこれら2か月に限定した取り組みであったが、ぜひまたやってほしいといった旨の要望が利用者から多くあったので、体制を整えばまた実施する意義は大きいと考える。本来児童館は0歳から18歳を対象としているが、中高生の利用はどこの児童館でも限定的だ。しかし利用が多くなるに従い、それら年齢の世代間の交流も見られたことから、児童館としての本来の役割が果たせると考える。